

4.ヒアリング(概要)

- ・町民に任せるやり方、新しい生き方を提案するまちづくり、住民でつくるまちづくりを進めてきた。自らの住環境をよくしたい、住環境を子や孫のためによくしたいという努力をするということ。その結果として、人が観光でくることがになった。
- ・古川町の景観条例についても、まちの人がつくった。1言1句意見をまちのひとから聴いた。家を建てる時に申請が必要であるが、そうした作り方をしたため、反発が少ない。
- ・ボランティアというと市民に叱られる。やって当たり前という意識がある。
- ・古川は盆地であり、頻繁に朝霧が立つ。朝霧が立つのは町に水の循環が保たれているためであり、こうした状況を残していくことが重要。町としても「朝霧たつ都」をキャッチフレーズとしているが、「朝霧」という言葉を、環境保全や景観等総合的な環境改善のためのシンボルとして用い、住民にわかりやすいものとしたいと考えている。
- ・森林保全、環境保全という観点からもっと森林政策を国策として考えてほしい。流木による被害は下流域の都市まで影響を与える。当地ではスギではなく、ナラ、ケヤキ等の広葉樹の適地であり、これらに戻していくことが国土保全に繋がる。水源の一番奥地にあるのは国有林であり、ここの管理を地元で財源とともに委ねることも検討すべき。
- ・道路拡幅により都市への通勤圏内に入れる。そうすれば自然環境のよい地域で若者も定住を続けることができるのではないか。
- ・我が国では最盛期には1年に190万戸住宅を作っていた。当然大工の人数は追いつかないため、職人を必要としないで作れる住宅が増えた。今、再び職人に注目が集まっているが、職人をつくるには、職人の仕事をつくる、すなわち職人を必要とする生活を作ることが必要で、我々の生活スタイルを変えねばならない。



宮川村



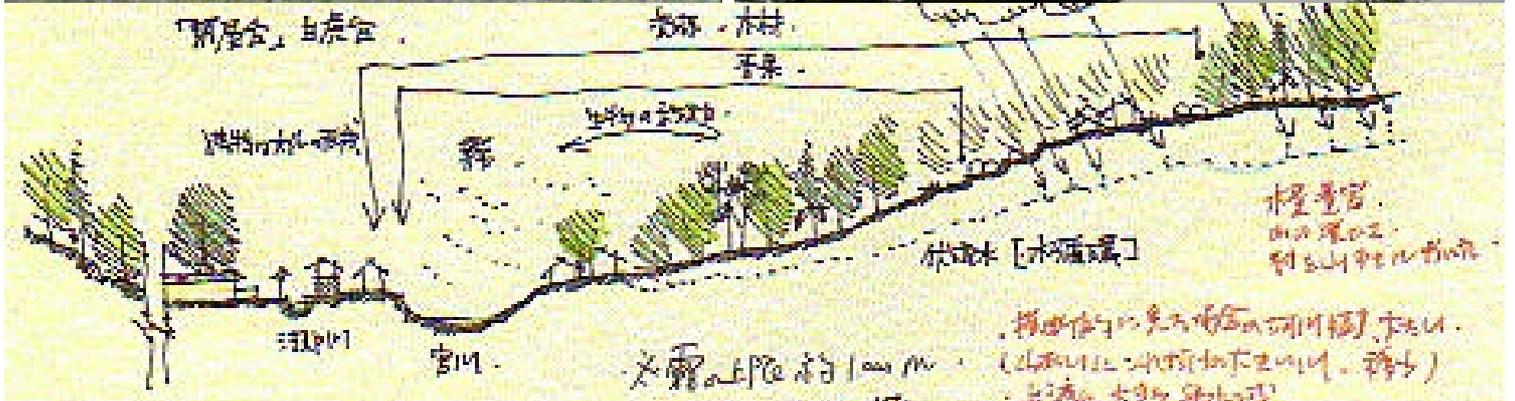
1999.9.15の豪雨災害の被害状況を振り返る



1999.9.15の豪雨災害後、復旧された河川



AM8:00、標高1100m程の高さから見た朝霧 (古川の町はこの霧の下に..)



通りに面して、花を生ける家々



瀬戸川には1000匹ほどの鯉が泳ぐ(4月~11月)。川の掃除は住民による。